

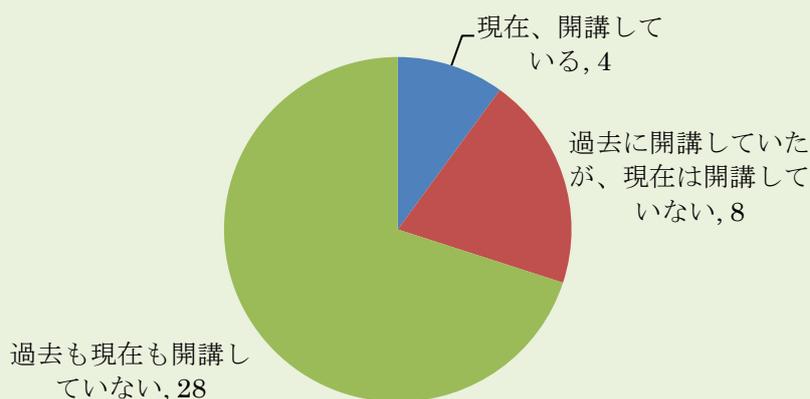
ボウリングの授業に関するアンケート調査結果ダイジェスト

ボウリングはファミリースポーツとして人気があり、多くの学生が経験していますが、大学体育にボウリングを導入し、普及を図ったのは本連合でした。一時期はボウリング授業を開講する大学が数多くありましたが、近年では減少しているようです。娯楽だけでなく、スポーツ教材としても価値が高いスポーツですので、大学体育で再開講する可能性も期待されます。そこで、ボウリング授業についての現状を把握するために、会員校へのアンケート調査を実施しました。調査は2016年6月23日から7月11日にウェブサイトで行い、有効回答数は40件でした。その集計結果の概要を報告します。

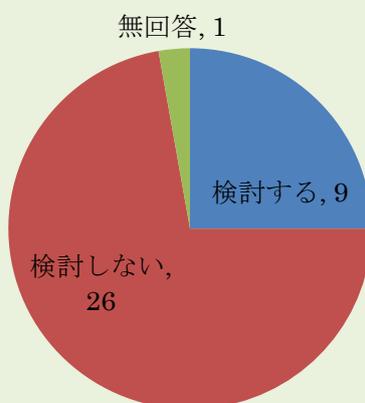
1. ボウリング授業の開講状況

「現在、開講している。」と回答があったのは4件あり、それぞれ10～30年前から開講しているとの回答を得た。また、「過去に開講していたが、現在は開講していない。」と回答があったのは8件、「過去も現在も開講していない。」と回答があったのは28件であったが、そのうち「今後開講を検討されますか」という質問に対しては「検討する」との回答が9件あった。

開講状況について

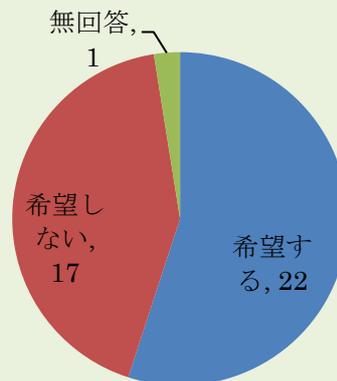


今後開講を検討するかについて（現在、未開講と回答した場合のみ）



2. ボウリング授業の指導者研修会を開催する場合の参加希望

有効回答数 40 件のうち、「希望する」と回答があったのは 22 件、「希望しない」と回答があったのは 17 件、無回答が 1 件であった。



3. ボウリング研究会や学会を設立する場合の参加希望

有効回答数 40 件のうち、「希望する」と回答があったのは 13 件、「希望しない」と回答があったのは 26 件、無回答が 1 件であった。



4. ボウリング授業についての意見や要望

主な意見や要望は以下の通りであった。

◇開設の意義や可能性

- ・家族で楽しめるスポーツなので、大学の授業として取り上げる価値がある。
- ・ボウリングの集中授業の補助業務を担当し、奥深いスポーツと実感した。教育効果は十分にある。
- ・冬期の積雪による屋外での体育実技が困難な際の副案としてボウリングを行った。

◇開設の課題

- ・初期投資にお金がかかりそう。
- ・近隣に施設がないので実施は困難である。
- ・ボウリング場の数も減ってきている上に、ゲーム代の負担を考えると難しい。

◇提案や要望

- ・集中授業であればいいかもしれない。
- ・ルールや教具を教育用にアレンジし、より取り組みやすくするような、教材開発やカリキュラム開発が必要である。
- ・ボウリング場に行かなくても体育館等でできる授業内容や用具の開発も必要である。
- ・学外施設を使うことになることが予想されるが、人数や移動方法、引率方法、金銭に関する事など、どのような手立てで実施していくのがよいか、モデルケースみたいなものがあれば（過去に開講している例も含めて）知りたい。

作成：大学体育関連情報調査チーム
小林雄志、小林勝法